INDEX

01　はじめに／まち歩きマップ

03　第1回
都立大学駅〜大岡山駅コース

07　第2回
目黒川（池尻大橋駅〜目黒駅）コース

11　第3回
東大駒場キャンパス正門〜
〆切地蔵コース

15　第4回
学芸大学駅〜目黒不動尊コース

19　第5回
祐天寺駅〜インテリアストリート〜
学芸大学駅コース

23　第6回
緑が丘〜自由が丘コース

27　コース評価

33　あとがき「まち歩きとは」

はじめに

「百聞は一見に如かず」と言う言葉がありますが、私たち目黒区に在住又は在勤する（社）日本建築家協会関東甲信越支部の有志が目黒地域会を立ち上げたのは 2008 年 3 月のことでした。そして、まず活動のテリトリーである目黒区をよく知るためには「街を歩く」ことが第一であると考えました。

私たち建築家は街を構成する建築物などを設計する専門家ですが、日常の業務に当たっては多くの場合、個々の建築デザインという限られたフィールドの中で仕事をせざるを得ません。しかし「街」とは、そうした建造物だけでなく道路や鉄道、河川に街路樹や家々の樹木、固有のランドスケープなどをも包括したもので、何よりもそこに生活する人々によって、或いは先人たちによって形づくられてきた空間、風景といってもよいものです。

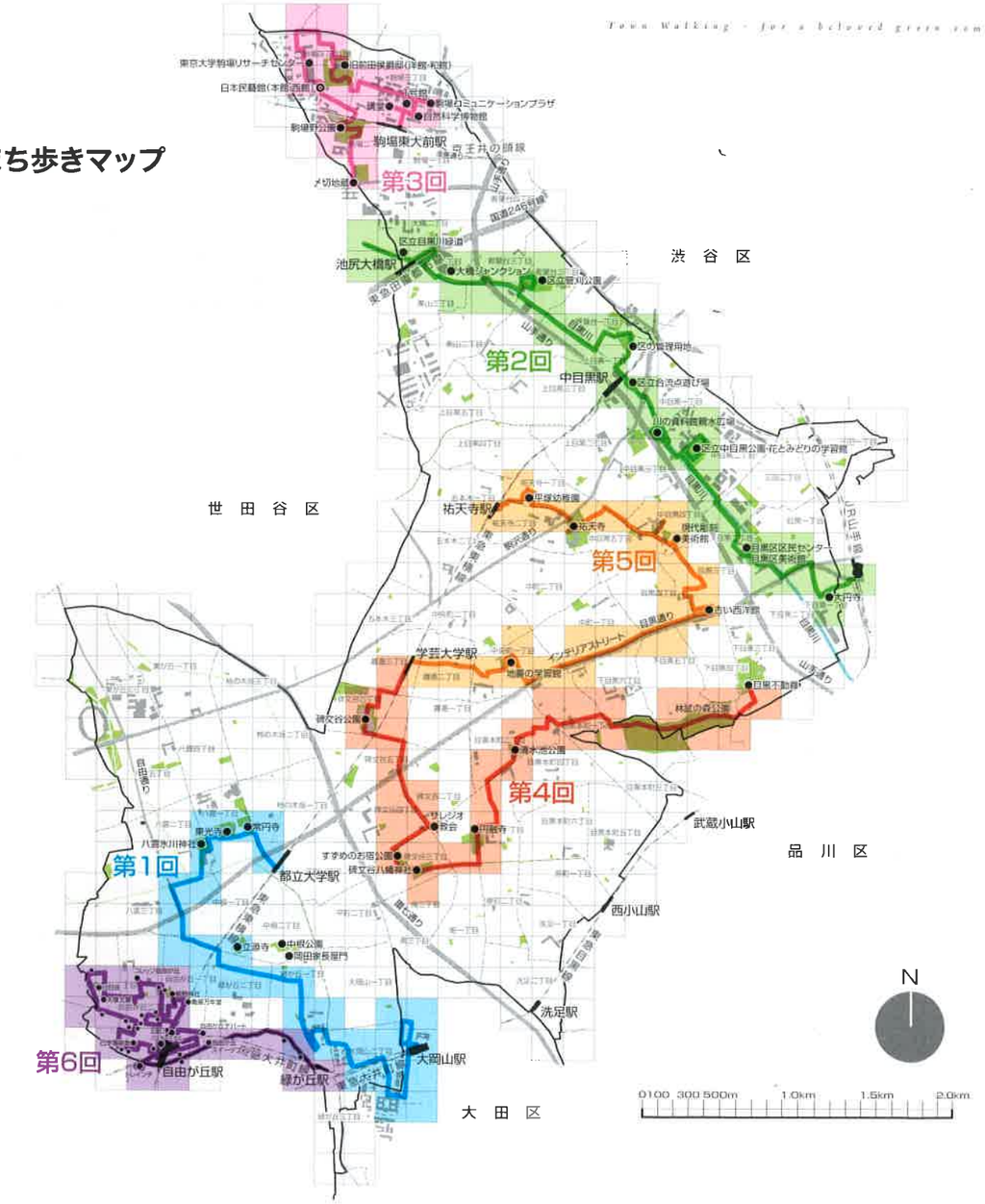
街の風景は千差万別で、そこに住まい集う人々にとって何が美しく心地よいと感じるのでしょうか。緑あふれる街並みは多くの人々にとって心地よい街の風景と映ります。一方、どぎつい看板が立ち並んだ商店街や赤提灯は猥雑を極めた街並みかも知れません。しかし、見方を変えれば人間味あふれ活気に満ちた街の風景であるかも知れないのです。

例えて言えば、若いカップルが「共通の価値観」で結ばれるように、「共通の街の価値観」を私たちが住まい、働くこの街で見つけ出すことが出来ないか、という想いを込めて始めたのが「いい緑のある住みたい街をつくろう　街あるき」の会でした。1 年に 3 回ほどのまち歩きの会を重ね、既に 6 回を数えたところで、その成果を小冊子にまとめることになりました。参加者も我々建築家に限らず、地域に住まわれる居住者や議員、行政の方々にもご参加いただきました。

ここに生活する人々の目線で街の魅力が再発見できれば、今後の街づくりに大いに役立つことと願っております。

（棚橋 廣夫／建築家）

まち歩きマップ



第１回 都立大学駅〜大岡山駅コース [2008.11.02]

text by 中山 庚一郎

JIA 目黒地域会憲章にうたう地域活動として、08 年 11 月 2 日、一般の方々や、街づくりに熱心な栗山区議にも参加いただき、15 人ほどで第一回のまち歩きを行いました。

都立大駅に集合し、都立大商店街、森のような氷川神社や鎌倉時代建立の東光寺のある八雲旧道、呑川付近、中根一丁目の住宅街、緑ヶ丘二丁目の住宅街、そして東工大をぬけて大岡山までの３キロを４時間かけて歩き、遅い昼飯を食べながら皆で話し合いました。観察評価の項目は、①住みたい街 ②カッコイイもの ③いい樹木 ④歩きやすくいい道 ⑤史跡文化財の５項目と同時に都市計画の絶対高さ、最低敷地などの妥当性の検証です。

【A 都立大駅周辺】

〈自転車〉東横線の渋谷に近いほうの駅の中では、出来たときからそのままなのか、野蛮な駅です。駅前は狭く自転車が路上にあふれていて、いつも目黒区の職員が取り締まっています。自転車は、エコやスマートシティの方向からみても推奨すべきことですが、歩く人にも乗る人にも、都市施設としての駐輪場の整備が望まれます。聞くところによると、目黒区で 300 台ほどの駐輪施設の計画をしたようですが、駅前の誰かが工事中の商売に支障があると反対して中止になったと言うことです。変な民主主義です。やむなく呑川の緑道においていますが、雨の日にも大変ですし、景観上も好ましくありません。

〈桜の木〉都立大駅の西側から目黒通にかけての緑道は桜の時期には、花見の人で賑わいます。音楽グループや花見屋台がでて、見事な桜の大木をながめる。この両側の商店街がブテックやオープンカフェになると、駅前もカッコよくなるのですが、なかなかまとまらないようです。

【B 東光寺、常円寺、氷川神社周辺】

〈古い門前町〉古くは街道であったであろう呑川に沿って緩やかに曲がる道に、社寺が並んである。その参道を入ると、社寺の門前にもう一本細い道がある。石屋もある道で落ち着いた雰囲気の界隈があります。寺の大銀杏の木、そびえる瓦屋根、氷川神社の森、大切に守りたい街です。今の時代に車の少ないことは、貴重なこと、しかしこの雰囲気の街にどんな現代性を入れたらいいのだろうか。

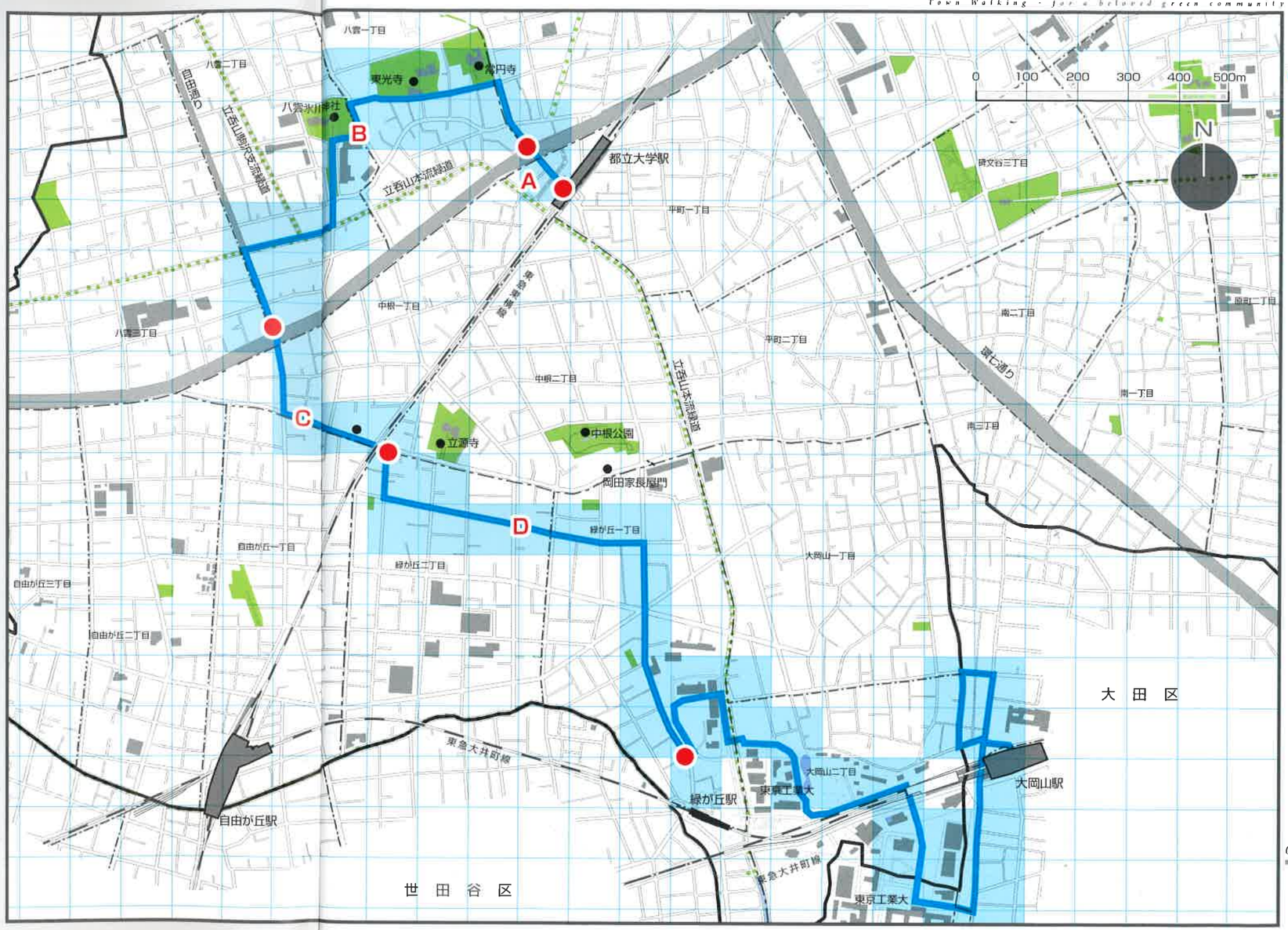
【C 中根一丁目付近】

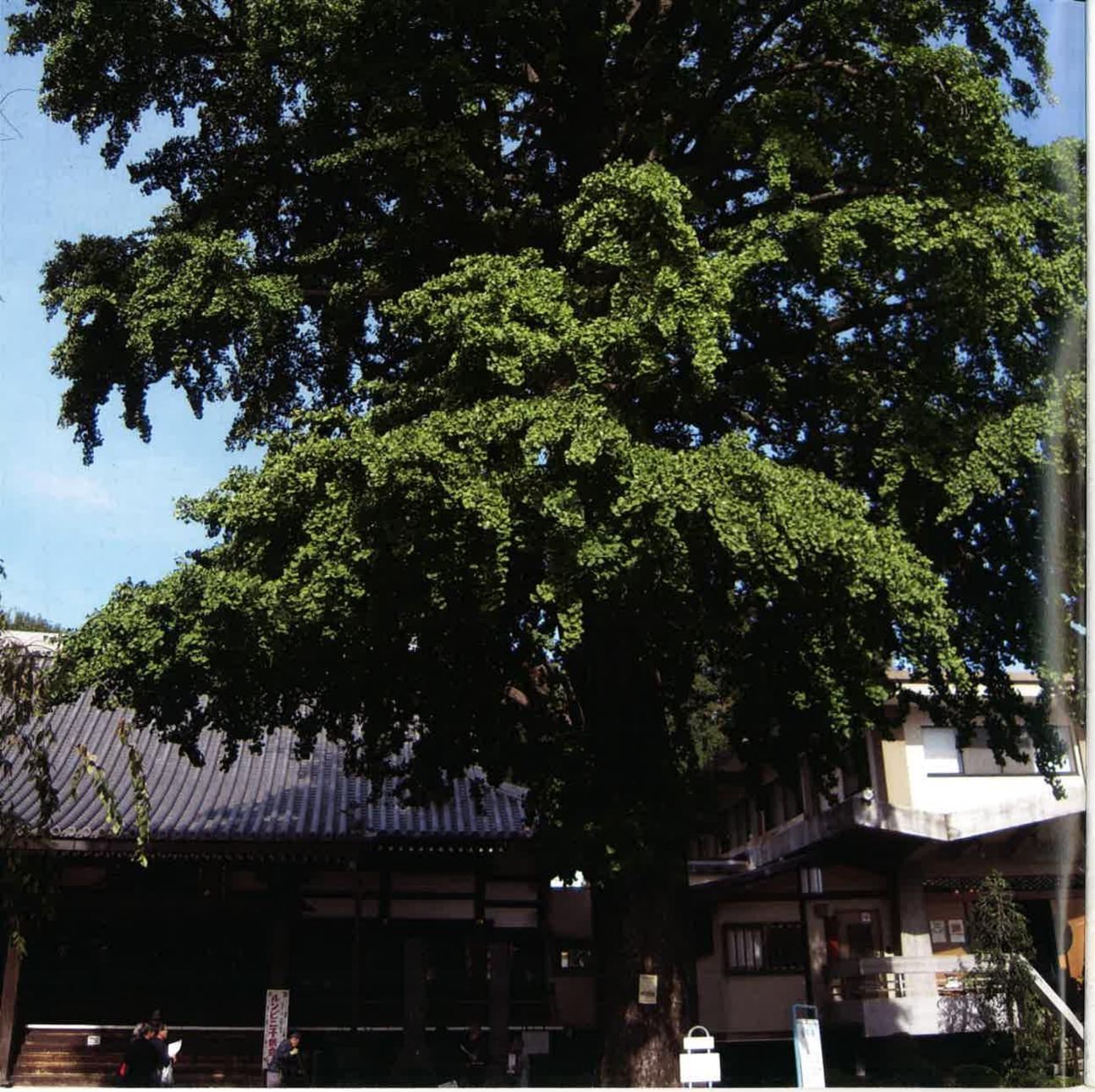
〈一山の丘陵〉呑川の大きく迂回する一山の丘陵がこの地帯の原風景でしょう。その丘の上に碑ふすま村の旧家である岡田邸や立源寺の大きな屋根がそびえその斜面に畑が広がっていたのでしょう。立源寺の森、岡田邸の森は今も残されて鳥たちの棲家である。呑川が復元され、岸辺に草花がしげり、昔あったのどかな、人びとと生物多様性の景観の復活は不可能なことなのか。住居の敷地も代が替わると細分化され、小さな建売住宅群に変わっていく。情けない社会システムと言わざるをえない、人間の幸せについての考え方の何かが間違っているのか。

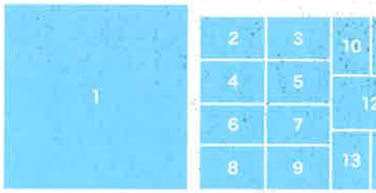
【D 緑ヶ丘二丁目付近】

〈とてもよい住宅地〉この辺りは戦争前に新しく作られた街か、大きな屋敷はないが、東京の懐かしい住宅地の雰囲気をもっています。通りの中ほどに花々の咲く家が三軒つづく。陽ざしの暖かい日曜日は家族で花の手入れや掃除をしている、庭のテーブルでお茶を飲ませる家もある。生垣がつづき、道路へ枝を伸ばす桜や松の大木、車の少ないこの道は散歩に最適、歩道を広く、車道を詰めて、車の速度は８キロに制限し、歩く人のための街にしたい。

行き過ぎた合理への反省や、車社会からの脱却、そして「のどかで緑豊かな住みたい街」を持続可能にする議論のために、目黒全域を歩き、これをデータベースとして、目黒の美しいまちの実現をめざし、区や地域との協議に役立てるつもりです。







❶常円寺大銀杏
❷目黒通り中根橋・呑川緑道
❸氷川神社の裏手 せっかくの緑も…
❹八雲・呑川緑道
❺中根の住宅街
❻緑小通りの住宅街
❼立源寺境内・中根
❽緑あふれる住宅・緑が丘
❾東京工業大学間の呑川緑道
❿氷川神社・八雲
⓫集合住宅に取り入れられた緑
⓬残された樹木・中根
⓭耐震補強された東京工業大学校舎
⓮壁面緑化を取り入れた大岡山駅

第２回 目黒川（池尻大橋駅～目黒駅）コース [2009.03.20]

text by 佐藤 友則

第２回まち歩きの会を３月20日開催しました。

今回は目黒川沿いの散歩です。池尻大橋駅からスタートし目黒川沿いを歩き目黒駅が終着点です。目黒＝中目黒、目黒川、桜というイメージがあるくらい広く知れ渡っています。そのような場所をゆっくりと歩いてみたいと思いました。

【A 池尻大橋～目黒橋（山手通り）】

池尻大橋から世田谷方面に世田谷区に続く目黒川緑道があります。歩道と自転車道が分離されていて非常に歩きやすい場所になっています。緑道には小川が流れ昔あった川を思い出させる場所となっています。次に246を渡るとすぐに大橋ジャンクションがあります。このスケール感はなかなか体験したことのないものです。近くには同じ規模それ以上の建物もありますが大橋ジャンクションはそれとは違うスケール感があります。よく見てみるといくつかスケールダウンする為の方法もとっているようではあります。今後この巨大な壁面をどのようにしていくのか、目黒川の緑と共存していけるのかは今後の大きな課題でもあり楽しみでもあります。

〈A 区間の目黒川〉この区間は大半を大橋ジャンクションの圧倒的な存在により特徴づけられていますが全体的に住居エリアとなっているため落ち着いた感じになっています。

【B 目黒橋（山手通り）～さいかち橋（駒沢通り）】

目黒橋より少し歩くと菅刈公園があります。江戸時代の大名庭園を復元した公園になっています。都会の喧騒を忘れさせてくれるような素敵な公園です。中目黒駅付近には２箇所ほど気になる場所があります。JR宿舎跡地と合流点遊び場です。JR宿舎跡地は現在は緑が多く面白い場所になっています。合流点遊び場は実際の場所を見るとその名前とのギャップにびっくりしますが、２箇所ともに区の重要な場所ですので今後の動向が楽しみです。

〈B 区間の目黒川〉この区間の目黒川が広く知られている目黒川のイメージだと思います。川沿いにおしゃれな店舗が軒を連ねています。昔からある建物の低層にテナントが入り、多くの店舗が桜並木、目黒川を意識した店構えとなっていてます。最近では新しい建物も少しずつ増えてきましたが、作られた街というよりは自然に生まれた感じがあり非常に活気があり魅力あふれる楽しい場所です。

【C さいかち橋（駒沢通り）～新橋（目黒通り）】

さいかち橋より少し歩くと川の資料館があります。資料館の廻りには広場がありフリーマーケットなどが開催されたりします。資料館では目黒川の歴史や現在の状況などを知ることが出来ます。その先には花とみどりの学習館中目黒公園があります。まち歩き当時は少し人工的で寂しい感じの公園でしたが、今では芝生の公園とそれとは逆に全く手をつけずに草ボウボウにしてある公園がありそれぞれが魅力ある場所となっています。学習館では定期的に催し物もしていたりといろいろなことが学習できます。

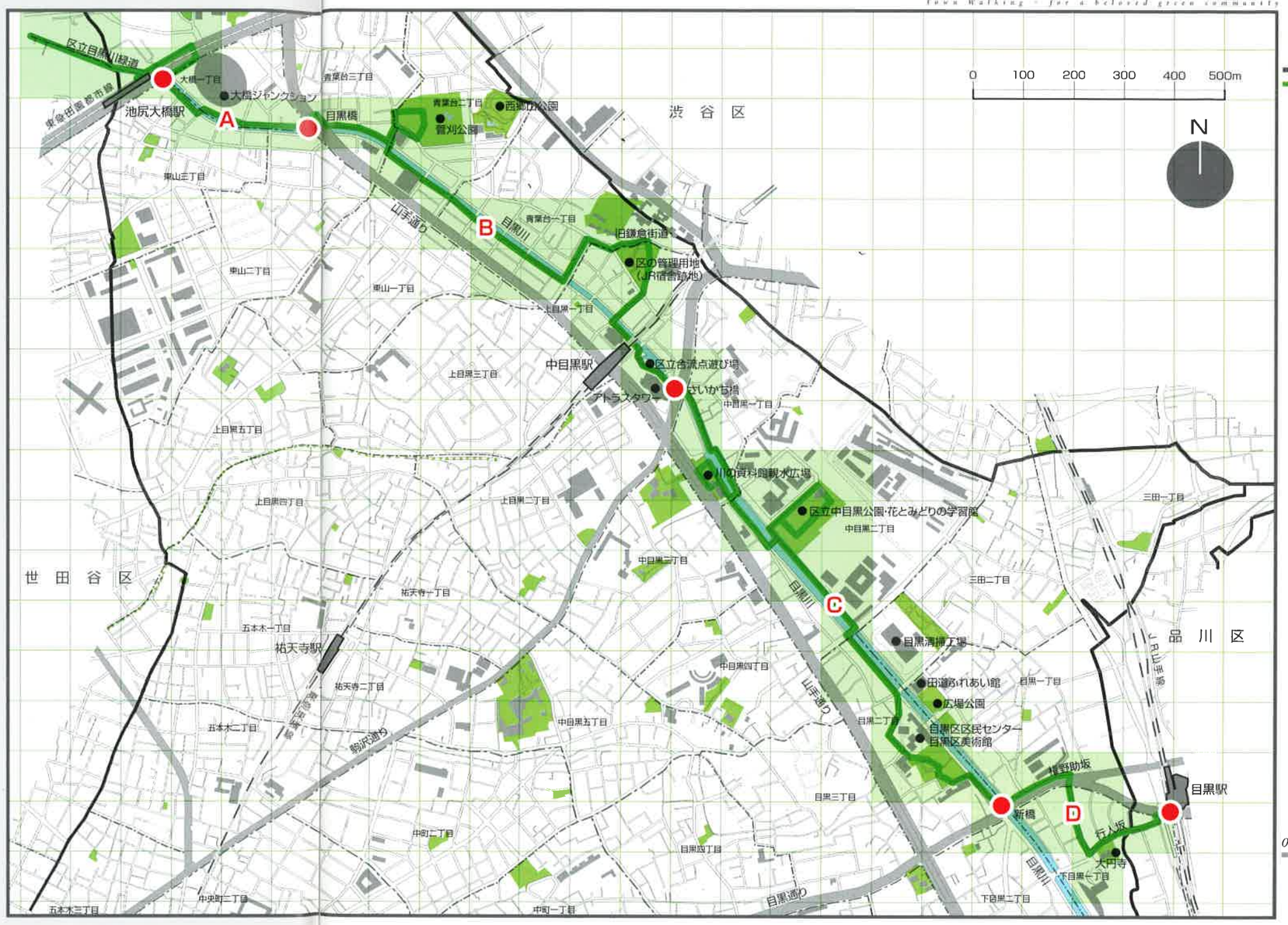
〈C 区間の目黒川〉この区間は中目黒周辺の商業的な場所とは違い落ち着いた生活の場所に変わります。まだ整備したばかりの所もありますが、区民センター、美術館、広場など区の施設が建ち並び区民の為の落ち着いた場所となっています。

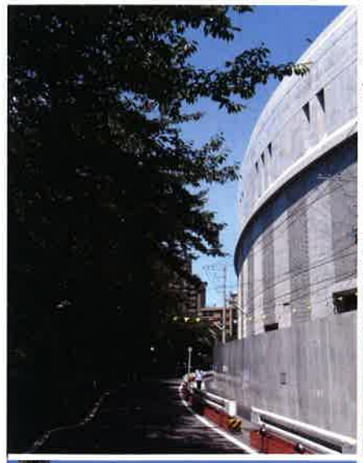
【D 新橋（目黒通り）～目黒駅】

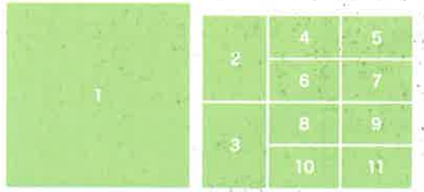
目黒通りは少し雑然としていますが、行人坂の方は大円寺などもあり歴史を感じる場所になっています。急な行人坂を上り切ると目黒駅になります。運がよいと坂の上から富士山を見ることができます。実はこの場所には昔富士見茶屋がありました。

散歩をしてみて同じ目黒川沿いでも場所によって様々な表情があることに気づかされました。目黒川というと賑やかなイメージがあると思いますが、それとは逆に落ち着いた区民の生活の為の場所もあります。その様々な顔があるからこそ目黒川沿いは魅力があり歩いていて楽しい場所なのだと思います。ただし歩いているとどうしても幹線道路で散歩道が途切れてしまうことがせっかくの魅力を減らしてしまい残念です。改善できれば本当に魅力ある散歩道になるのですが。

目黒駅までは長い道のりで結構疲れましたが大変に有意義なまち歩きとなりました。







❶目黒川
❷大橋ジャンクション
❸行人坂
❹目黒川 中の橋
❺菅刈公園
❻花とみどりの学習館
❼区立合流点遊び場
❽川の資料館
❾親水広場
❿大円寺
⓫大円寺石仏群

第３回 東大駒場キャンパス正門～ メ切地蔵コース［2009.06.21］

text by 棚橋 廣夫

６月 21 日の日曜日、第３回日本建築家協会目黒地域会「まち歩きの会」が開催されました。あいにくの大雨になってしまいましたが、31 名もの参加者が「駒場東大前駅」に集合しました。目黒地域会の建築家と駒場地域の住民の方々、区議会議員や区住宅・街づくりセンターの職員の方々など多彩な顔ぶれでしたが、和やかな雰囲気の中、文字どおり緑適る「東京大学駒場キャンパス」や「旧前田公爵邸」のある「駒場公園」、「東京大学駒場リサーチキャンパス」、「日本民藝館」などを巡り江戸時代から戦後に至るまでの「駒場野」の今昔の片鱗にもふれることができました。

【東大キャンパス】

東大キャンパスは加藤道夫教授のご案内で、旧制第一高等学校（一高）時代に建てられた本館、図書館、900 番教室などを見学しました。これらの建築のほとんどが今回ご参加いただいた内田祥哉東大名誉教授のお父様にあたる内田祥三先生の設計によるものですが、当時は祥哉先生も幼少であったとのことでした。一高時代の図書館は現在、「駒場博物館」として一般にも公開しておりますので、特に駒場農学校時代からの駒場野の変遷を知る上で面白く、内部空間もレトロなので一見の価値ありです。又、あまり知られていない施設として一高時代に同窓会館として建てられだ駒場ファカルティハウス」内には落ち着いた雰囲気のフランス料理レストラン「ル・ヴェソンヴェール」があり、昼はテラスでランチなど、これも一般利用が出来ますのでおすすめです。

【旧前田侯爵邸】

東大の本郷キャンパスの拡張に伴ってこの地、駒場に移転された加賀百万石 16 代当主前田利為（としなり）侯爵が建てた「旧前田侯爵邸」は「駒場公園」内に有り一時期「都立近代文学館」として利用されていましたが同施設が移転、今は元の姿に戻され一般公開されています。今後の利用形態が気になるところです。

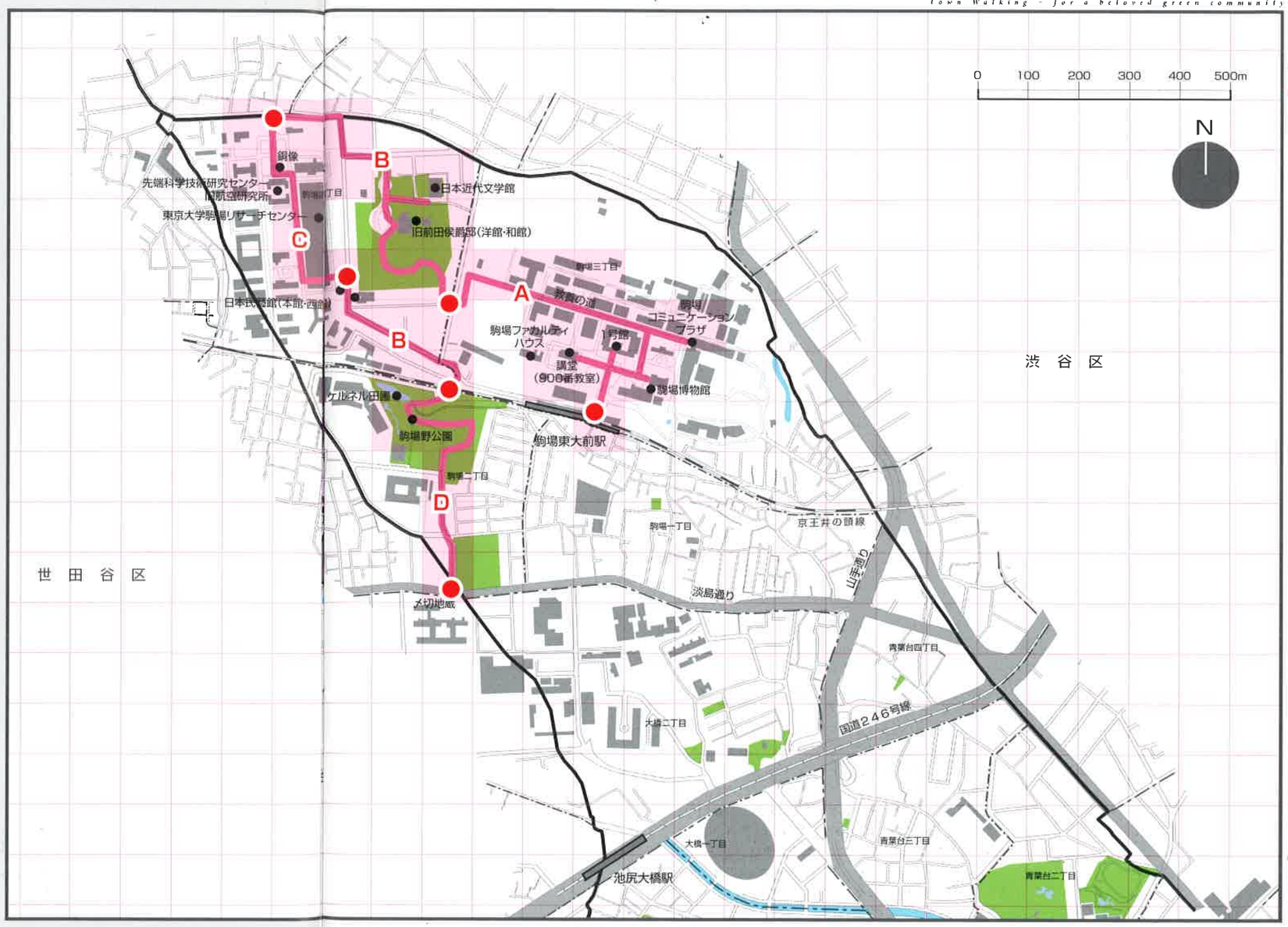
【日本民藝館】

駒場にあるもう一つの文化財施設が「日本民藝館」です。この日本民藝館は柳宗悦（むねよし）により創設された日本、朝鮮半島を中心にした民藝品の展示館ですが、そもそも「民藝」という言葉自体、柳宗悦を中心に陶芸家濱田庄司、河合寛次郎などによる「民藝運動」により生み出されたものです。この民藝館が誕生した当時の経緯を学芸顧問の尾久彰三（おぐしょうぞう）氏から直接お話をお聞きすることが出来ました。当時、朝鮮陶磁器の美に傾倒していた柳は次第に暮らしの中に息づく民族を超えた「日用品の美」に共感を覚え、「民藝運動」を興すのです。声楽家でもある妻柳兼子と新居の地を探す内、この駒場に土地をみつけ、敷地に続く竹やぶの道が気に入って新居を建てることになったそうです。当初はごく小さな住宅を建てる予定であったが、仲間内の濱田や河合に相談したところ民家を買って移築しようということになり、早速濱田が栃木県国本村の長屋門を探してきて購入することにしたそうです。価格は当時の金で 200 円、駒場までの運搬には 200 円強がかかったそうです。これが近年保存改修工事が終わり一般公開もされるようになった旧柳宗悦邸の「日本民藝館西館」です。柳らは次に是非とも民藝運動の拠点となる「日本民藝館」の創設に奔走します。この夢は昭和 11 年倉敷の実業家、大原孫三郎（倉敷紡績社長・大原美術館創設者）の出資により実現されることになるのですが、実にその大原と柳が面会し出資を懇願した長屋門の一室で尾久彰三氏よりお話を伺うことが出来たのは貴重なめぐり合わせでした。現在その日本民藝館本館は旧柳宗悦邸の道を隔てた東側に建っております。

【駒場野公園】

まち歩き最後は井の頭線南側に広がる「駒場野公園」です。駒場農学校時代ドイツの近代農法に範を求めた農学校に気鋭のドイツ人教師が赴任してきます。彼の名前はオスカー・ケルネル。今は暗渠になってしまった空川の上流部に日本で最初の実験水田を開き土壌や肥料の改良に取り組みました。これが今も残る「ケルネル田圃」です。現在は筑波大学付属駒場中学・高校の生徒たちが米づくりを体験学習、秋には「案山子コンテスト」が毎年開かれ井の頭線の車窓からも望むことが出来ます。

このように、歴史的遺産や自然が残る駒場地区を見て廻りましたが、目黒区においてはこの９月にも景観法を受けて目黒区の景観計画が策定され条例化されようとしています。我々日本建築家協会目黒地域会もより良い駒場の街づくりに参加して行きたいと思っています。



❶東京大学駒場キャンパス1号館
❷教養の道
❸先端科学技術研究センター・旧航空研究所
❹旧前田侯爵邸洋館
❺銅像「航空」
❻旧前田侯爵邸和館
❼日本民藝館
❽日本民藝館・西館
❾日本近代文学館
❿駒場公園・旧前田侯爵邸
⓫日本民藝館・西館の大谷石屋根
⓬ケルネル田園

第４回 学芸大学駅～目黒不動尊コース [2009.10.18]

text by 袴田 喜夫

10月18日の日曜日、第４回街歩きが開催されました。秋晴れの気持ち良い天気のもと、12名の参加者が学芸大学駅を出発しました。学芸大学駅から、碑文谷公園、サレジオ教会、すずめのお宿公園、碑文谷八幡神社、円融寺、清水池公園、林試の森公園、目黒不動尊、海福寺、青木昆陽の墓、五百羅漢寺まで目黒区南部の公園、名所を約５時間かけてじっくりと見て歩きました。途中の街並みは商店街から閑静な住宅街、商店と住宅が混在する活気ある住宅街と多様で、名所旧跡と合わせて目黒の歴史と街の楽しさを満喫できました。

【学芸大学駅前】

目黒区内のほとんどの鉄道駅には駅前広場がありません。学芸大学駅も高架下のスペースだけで、そのまま商店街になります。その狭さが賑わいを演出している部分もありますが、自動車が寄ることができないので送迎に不便で、非常時には緊急車両の問題もあります。

【碑文谷公園】

目黒区立碑文谷公園は、古くは農業用水池だった碑文谷池を中心にした緑豊かな公園と、グラウンド(野球場、テニスコート)と体育館の運動公園からなる目黒区内でも大きな規模の公園です。運動公園は旧第一勧業銀行のグラウンドを目黒区が取得して一体整備をしたものです。一角にはポニーに乗れる動物広場もあり、初めて見るとこれが目黒区にとびっくりするくらい立派な厩舎があります。ボート漕ぎも出来る碑文谷池は一周約450mあり、地域の人々のジョギングや散歩のメッカとなっています。

【鷹番・碑文谷】

目黒通りの両側の鷹番地区と碑文谷地区は比較的敷地の区画が大きな住宅街です。碑文谷公園の碑文谷六丁目から一丁目まで碑文谷を歩きました。二丁目には古くからの地主である角田家の長屋門などの農村時代の遺構も残っていて、当時の雰囲気を感じることが出来ます。ダイエー裏の角田家の土地はうっそうとした森として残っていますが、工事用の仮囲いで30年近くも囲われたままで残念です。私有地でもその規模に応じて公共的な責任が生じると思います。行政とも協力して知恵を出し合いたいものです。

目黒通り南側の碑文谷の一丁目と二丁目にはサレジオ教会、すずめのお宿公園、碑文谷八幡神社、円融寺という目黒区内の名所が近い範囲にあります。また、サレジオ教会横のバス通りと立会川緑道は桜並木の名所です。季節の変化が楽しい散歩に適した街です。

【目黒本町】

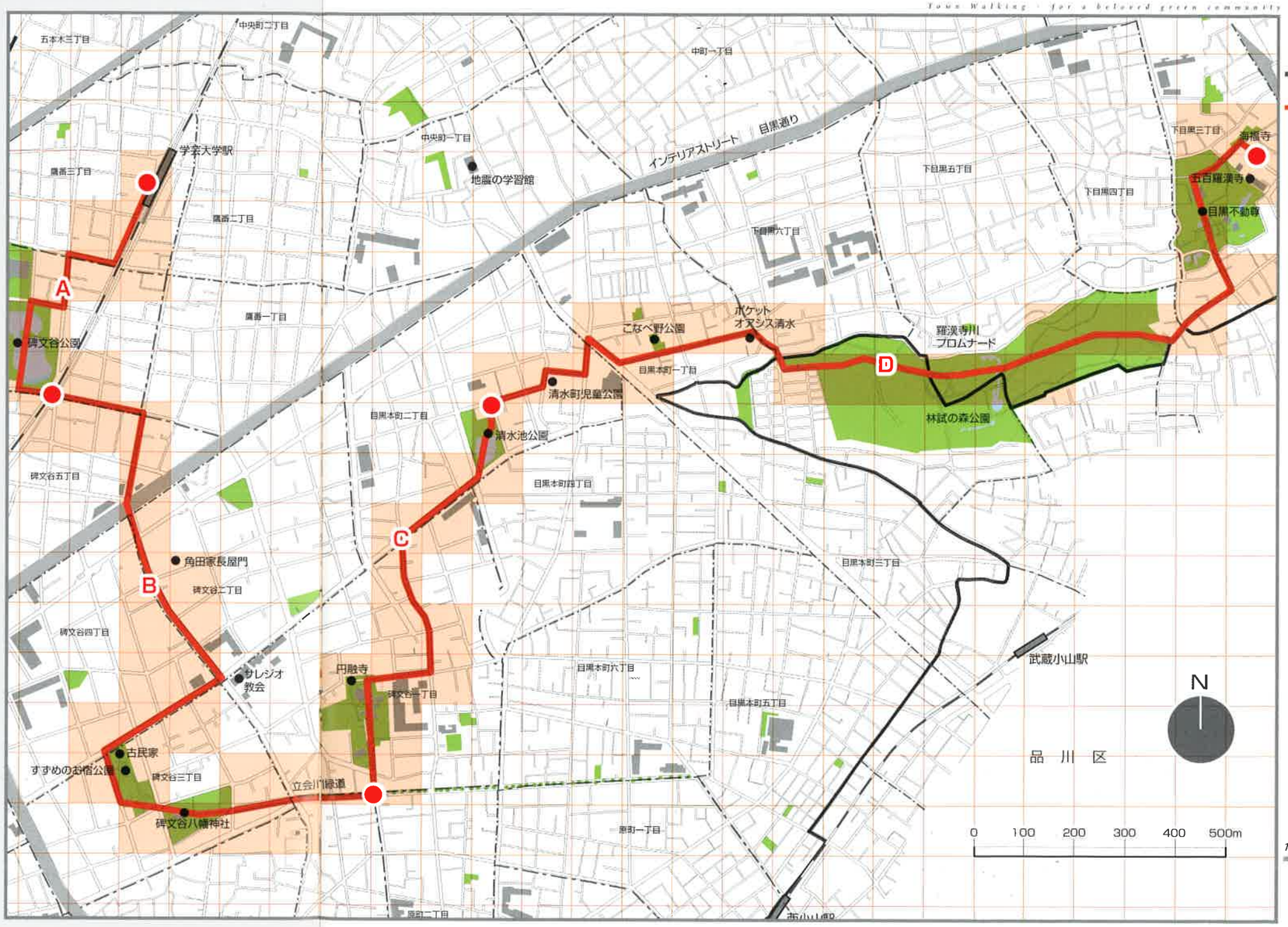
鷹番、碑文谷に隣接する中央町と目黒本町は商工業の会社も点在する活気ある街です。清水池公園から目黒本町に入りました。清水池公園は都内では珍しい釣りのできる公園です。街歩き当日も良い天気に誘われて多くの太公望が釣り糸を垂れていました。目黒本町地区はこの他には大きな公園はありませんが、小さな公園がいくつもあります。今回のコース沿いにも清水町児童公園、こなべ野公園、ポケットオアシス清水があります。それぞれ小さな公園ですが、その規模に応じて良く整備されています。ポケットオアシス清水は本当に小さな街角の一隅で、樹木やベンチだけでは殺風景になってしまうのを工夫して人工的な小さなせせらぎを作っています。その工夫が楽しくほっとできる場所でした。

【林試の森公園】

目黒区と品川区にまたがる大きな公園です。林業試験場の跡地だけに珍しい樹木が多く、案内や説明がとても良く整備されています。小川や池や運動広場もあり、起伏に富んだ奥の深い公園になっています。公園の目黒側の羅漢寺川プロムナードは谷筋なので元来湿気の多い所でしたが、緑道が整備されたために公園に面して新しい斬新な集合住宅が出来始めています。公共的な整備によって環境が向上して資産価値も上がった好例と言えます。

【目黒不動尊】

目黒のお不動さんは江戸時代からの名所です。周辺には青木昆陽の墓や五百羅漢寺、海福寺などの特色ある寺院があり、門前商店街の賑わいも楽しく散歩のラストにはとても良いところでした。五百羅漢寺は、運営が困難になった寺を墓所を建物内に設ける近代的な寺院に建替えて再興した寺です。海福寺は比較的珍しい黄檗宗の禅寺です。



❶碑文谷公園
❷碑文谷公園ボニーの家
❸角田家長屋門
❹サレジオ教会とテラスレストラン
❺すずめのお宿公園古民家
❻清水池公園釣人
❼ポケットオアシス清水
❽羅漢寺川プロムナード
❾林試の森公園
❿碑文谷八幡参道
⓫円融寺参道
⓬目黒不動尊

第５回 祐天寺駅～インテリアストリート～学芸大学駅コース［2010.03.28］

text by 木村 丈夫

３月 28 日の日曜日、恒例となりました目黒地域会主催のまち歩き会を行いました。早いもので今回が第 5 回目となります。今回は、目黒区のほぼ中央部で、江戸時代の自然及び文化遺産が残る祐天寺界隈、近年インテリアストリートと呼ばれ人気のある目黒通りを探訪しました。

【A 祐天寺駅～目黒高校前】

祐天寺駅は改札を出てすぐ石屋さんの資材置き場があったり、古い木造２階建住宅が並んでいたりで、渋谷から三つ目の駅とは思えない程のんびりとした雰囲気があります。しかし駅前ロータリーから駒沢通りに向かって延びる商店街の道は旧態どおりで、双方向のまま路線バス、車、歩行者が同じ通りを共有する危険な状況です。ロータリーの改善を含めた周辺の道路交通計画の見直しが急務と感じます。駅前から 2-3 分歩き、バス通り商店街とは対照的に静かなみよし通り商店街にある「平塚幼稚園」を訪れました。楠の巨木とうさぎやアヒルなどの小動物たちが共生する一昔前にタイムスリップしたような園庭に、福島県で廃校になった小学校の木造校舎を移築し再利用した園舎があります。この日は特別に内部を園長の平塚さんが案内して下さいました。時を経た木材が荒々しく露出した骨太の室内外の空間は、自由や自然児という言葉を思い起こさせます。

【B 祐天寺～現代彫刻美術館～目黒通り】

みよし通りから駒沢通りに出たところに、駅名にもなっている「祐天寺」の山門があります。重要文化財に指定されている江戸時代の遺構のある境内を見学し、隣接する墓地の間を抜けると、車一台やっと通れるほどの尾根道に出ます。道沿いの寺「長泉院」には現代彫刻美術館が併設されており、屋外彫刻展示もあります。散歩がてらに誰でもが鑑賞できる親しみやすい美術館です。尾根道をさらに進み、歴史を感じさせる馬喰坂や庚申塚を横目に見ながら、急勾配の「十七ヶ坂」を下り、今度は坂や階段を登りながら住宅街を抜け、漸く目黒通りに出ました。この辺りは坂の街と呼ばれる目黒をまさに体現できる起伏に富んだ地形です。

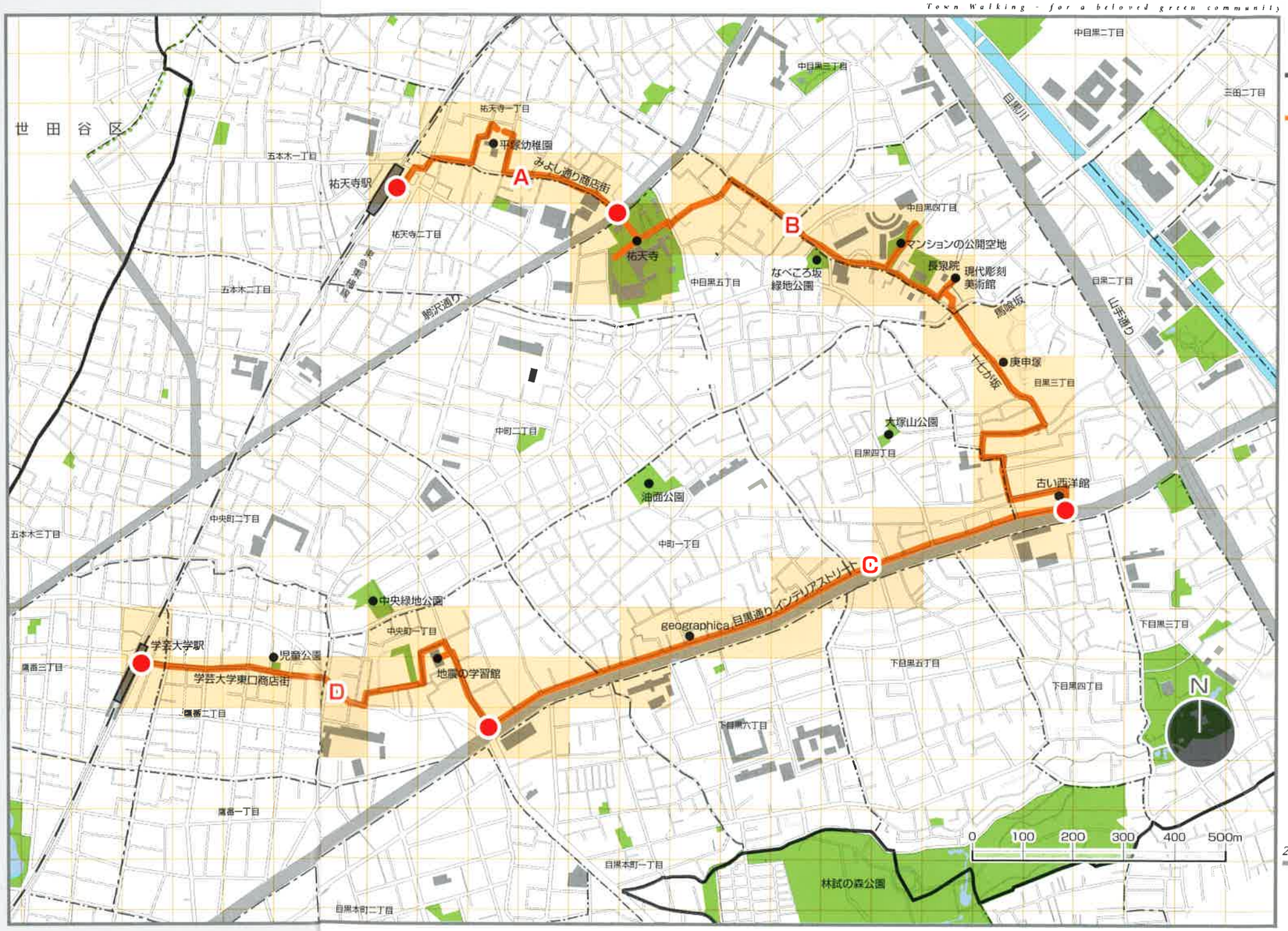
【C 目黒インテリアストリート】

街歩きの後半は、近年急速に家具やインテリア小物のお店が集積している目黒通りを歩きました。途中 geographica というアンティーク家具のお店に立ち寄り、meguro interior shops community の事務局長さんからインテリアストリートの街づくりについてのお考えなどを伺いました。既に 50 以上の店が出店していますが、まだ共同でイベントを仕掛けるといった活動には至っていないようです。我々が歩いて感じたのは、家具ストリートと言う名にふさわしいような休憩できるベンチやポケットパークがあれば、もっと楽しく散歩できるのでは、という事です。

【D 地震の学習館～学芸大学駅】

目黒通りから学芸大学駅に向かう途中に「区立地震の学習館」があります。非常に立派な建物ですが、残念ながら一般市民にはほとんど知られていないようです。地下には、関東大震災や阪神淡路大震災の揺れをいつでも無料で擬似体験できる装置があります。参加者全員改めて地震の揺れの恐ろしさを体感しました。館を出た後は、車の締め出された学芸大学駅前商店街を歩き、終点の学芸大学駅に到着しました。

以上、全行程 5km の道のりを約 5 時間かけて歩き終えました。今回時間の都合で割愛せざるを得ませんでしたが、コースの途中に目黒競馬場跡があり、今でも競馬場外周の曲線部分が残っています。



❶平塚幼稚園
❷祐天寺
❸現代彫刻美術館
❹古い西洋館
❺平塚幼稚園の巨木
❻祐天寺駅前ロータリー
❼現代彫刻美術館
❽庚申塚
❾マンションの公園空地
❿馬喰坂
⓫十七が坂
⓬インテリアストリート
⓭ geographica
⓮学芸大学駅東口店街
⓯学芸大学駅前

第6回 緑が丘〜自由が丘コース [2010.07.24]

text by 伊藤 正

7/24(土)、JIA 目黒地域会の第 6 回「まち歩き」を行いました。今回の対象地は、住みたい街ランキングで毎回 1 位を争う自由が丘。落ち着いた高級住宅地と小規模店舗が建ち並ぶ駅前商業地の 2 つのエリアを軸に自由が丘の魅力を探ることが今回のテーマです。

【エリア A ／緑ヶ丘駅〜九品仏緑道住宅街エリア】

スタートは、東急大井町線の隣駅となる「緑が丘」から。桜並木の九品仏川緑道沿いを歩きながら、自由が丘へと向かいます。このエリアは、緑ヶ丘駅そばの庶民的な雰囲気から、徐々に某女優さんや建築家の自宅などが並ぶ高級なエリアへと変わっていきます。建築としては、せっかくの緑道を上手く取り込んだ住み方が思いのほか少ないかもしれません。また、緑道からの飛出し防止用に設置されたフェンスは、逆に道路を歩く歩行者の妨げとなっているため、フェンスを無くし、緑道と道路とを一体利用する提案をさせて欲しい。

〈スイーツフォレスト〉 2003 年にオープンしたスイーツの殿堂で、スーパー・パティシエたちが作り出した至福の味を堪能できる魅惑のスポット。「自由が丘＝スイーツ」という、街のイメージに与えた影響も少なくない。また、この事業モデルを真似た施設が全国に広まったが、ここがその元祖と言える。

【エリア B ／自由が丘駅周辺商業エリア】

東急東横線の「自由が丘」駅を中心に、商業エリアが広がります。元祖モンブランが食べられる「モンブラン」や辻口パティシエの行列店「自由が丘ロール屋」、王さんの CM でも有名だった「亀屋万年堂」などのスイーツ関連。「イデー」、「シボネ」、「私の部屋」、「BALS TOKYO」、「アクタス」などのインテリア関連のお店はとくに充実しています。また、水の都ベネチアの町並みを再現した「ラ・ヴィータ」、東急線車両基地の跡に建設された「トレインチ」、戦後から続く下町的雰囲気の残る「自由が丘デパート」など、多様な商業施設があることも魅力です。

〈自由が丘駅前再開発〉 今月より着工された再開発。駅前のシンボルとなっている女神像の位置を動かすことで、新たな広場を作り出す提案となっている。しかしながら、歩車分離という観点では、より歩行者中心の計画が望ましかったと思われる。狭い道路割に交通量が多いなど、仕方のない面もあるが、駅前にタクシーが並ぶ姿は美観上好ましいとは言えないだろう。また植栽計画についても、広場内にもう何本か大きな木があれば、街の顔としても、より親しみが感じられる提案になっていただろう。

【エリア C ／自由が丘住区エリア】

商業エリアの背後に広がる自由が丘住区エリアは、これぞ自由が丘と呼べるような、大きな区割りでゆとりのある住宅が数多くあります。地名に自由が丘が付くか付かないかで、土地代が大きく変わることも頷けます。また近年は、自由が丘でも土地が細分化され売られていく傾向があるため、長い目で見ると街並みの魅力が損なわれる懸念があります。

〈大塚文庫〉 突然の訪問にも関わらず、内部を見学させていただいた大塚文庫は、大塚正夫が生前の 1989 年に、美術工芸品のコレクションを収蔵展示するために、自宅敷地内に建設したもの。建築家大江宏の最後の作品で、道の軸線を受けとめるエレベーション、富士山を望む望楼や地形との呼応する形態など、街並みや土地の文脈に関わろうとする意志が佇まいに表れている。

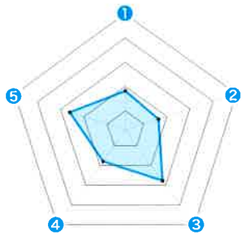
以上、予想以上の晴天による暑さで午後のコースを一部カットすることになりましたが、今回の「まち歩き」を通して、普段何気なく過ごしている自由が丘の魅力を再認識することができました。

❶大塚文庫
❷九品仏川緑道
❸九品仏川緑道
❹トレインチ
❺熊野神社
❻白山眼鏡店
❼ラ・ヴィータ
❽自由が丘住区エリア
❾自由が丘駅前
❿スイーツフォレスト
⓫ J-alley
⓬古桑庵

第1回 都立大学駅～大岡山駅コース [2008.11.02]

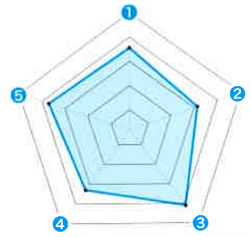
[パラメーター] ❶ 住みたい街 ❷ カッコいいもの ❸ いい緑 いい樹木 ❹ 歩きやすい道 ❺ 史跡 文化財

A 都立大商店街付近



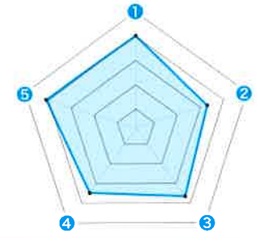
- 街の雰囲気は雑然とした感じ。
- 中根クラブ緑道部分はブティックやオープンカフェにすると街の雰囲気は変わるのではないか。
- 駅構内が少し汚いのが残念だ。
- 呑川の桜、目黒通りの街路樹は良い。
- 歩道は通勤の歩行者が多い為もう少しきれいにしたい。
- 一般道は歩道狭く、放置自転車多く、交通量多く危険である。
- 中根橋の橋柱は良い。
- 都市計画の検証としては妥当である。

B 八雲旧道呑川付近



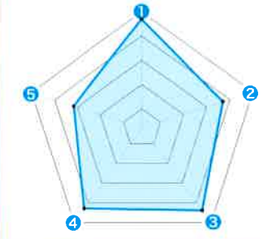
- 古い街道の名残りが落ち着いた雰囲気で良い。
- 緑道周り寺門前町の雰囲気は良好である。旧道商店街は寂しい。
- 東光寺、常円寺の大屋根と参道が良い。
- 氷川神社のシャッターの絵は好くない。
- 東光寺、常円寺の大銀杏、庭園、氷川神社の森、緑道の桜が良い。
- このエリアは、立派な緑がいくつもあるのでこれからも大事にしていきたい。
- 車が少なく非常に歩きやすい街である。
- 道がゆるやかに曲がり、生垣など懐かしいが、氷川神社のゴミ置場やフェンスが良くない。
- 自由通りの歩道を広くするべきではないか。
- 史跡など数多く残っている。
- 氷川神社は地元の鎮守だが、境内の手入れ、貸ガレージなど管理が悪い。
- 目黒区の案内板は良い。参道の雰囲気はとても良い。
- 都市計画の検証としては妥当である。

C 中根一丁目付近



- 落ち着いた雰囲気で良い。
- 道路幅、敷地が広く、庭付きの住居が多い。
- 江中邸付近に後世にも残していきたい建物が幾つか存在する。
- 江中邸、岡田邸辺りの大欅、立源寺の森、生垣のある家により緑を感じることが出来る。
- 景観としての重要性と小鳥,小動物の生態上からも大欅、森などは大切に守るべき。
- このエリアは一番親水性がある地点。水鳥、魚なども一番多く生息しているエリア。
- 道路は広くて良い。
- 道路が広いため速度が出て危険、歩道を3mにして車道を狭めるべきではないか。
- 岡田邸の長屋門、立源寺は立派である。
- 碑衾村の旧家の大きな門構え。
- 寒行、お会式、除夜の鐘など街の生活と共にある。
- 都市計画の検証としては妥当である。

D 緑が丘二丁目付近

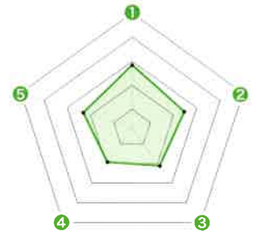


- 長閑な、懐かしい雰囲気。
- 静かで、特にとび出たものもなく落ち着いた生活感と住み方がいい、花咲き、生垣多く、松もあるお宅が多い。
- 三軒続く、バラの咲く家。
- 陽のあたる日曜日に家族で花の手入れや掃除をしている。
- 庭のテーブルでお茶を飲ませる家があった。
- 生垣、吹き抜けの竹林、道路へ枝をのばす松や桜の大木。
- 町の人皆が花や木を大切にしている。
- 車が少なくて良い。
- さらに安全のため四つ角の歩道化や、10ｋｍの速度制限が望ましいのではないか。

第2回 目黒川（池尻大橋駅～目黒駅）コース [2009.03.20]

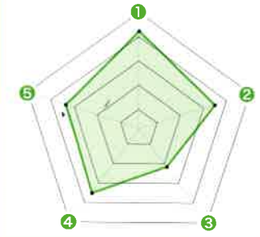
[パラメーター] ❶ 歩きたいか ❷ 緑は感じるか ❸ パブリックサービスは ❹ まちなみの魅力はあるか ❺ 総合評価

A 池尻大橋駅～目黒橋



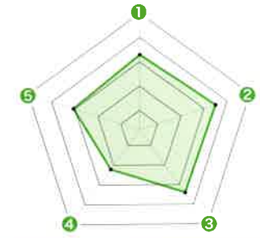
- 桜並木が目黒川に枝を伸ばす景観はダイナミックといえる。同時に護岸や周囲の建築が人を寄せ付けない。
- 川との関係性を持った建物が少ない。
- 大橋ジャンクションの壁があることであまり自然を感じない。
- ベンチなど置かれているが「駐車禁止」の看板が邪魔している。
- ジャンクションの壁のせいで閉鎖感がある。
- ジャンクションの壁の処理が必要ではないか。例えば壁面緑化など。
- 目黒川と建物の関係性が薄いため景観的な魅力に欠ける。
- 橋からの目黒川の眺めはよい
- 大橋ジャンクションには公園が出来るそうだが、どのようにグランドレベルから人を自然に導くことが出来るのか心配であると同時に楽しみである。その結果街並みがどう変わるのか見てみたい。
- ジャンクションのオーバルはほぼローマのコロッセオと同規模と言う。現代のコロッセオをもっとモニュメンタルな景観としてデザイン出来なかったのか残念である。

B 目黒橋～皀樹橋



- 目黒川の桜並木が整備され、周辺のブティックやレストランと共存共栄して魅力ある街を形成している。
- 街の魅力をカフェなどの店舗がつくりだしている。
- 整備されているわけではないが魅力ある場所となっている。
- 歩道と車道が分かれていない為たまに車が通ると危ない。歩車分離の方法を検討してはどうか。
- 目黒川と建物の関係、建物のスケール、高さがほどよく、開放性を感じ歩きたくなる。
- 純粋な自然とはいえないが、人が集う空間の構成を評価すべき。
- JR宿舎跡地を公園にしたらもっと良い場所になるのではないか。
- 緑も整備されているが手摺りで川との関係性がなくなる。
- 川に向けた長いベンチが欲しい。一部駐輪させない為のチェーンがあるがベンチで代替えすべきではないか。
- 川を眺める為のスペースが全て立ち入り禁止になっており、すべて緑化した方が良い。
- 駐輪禁止などの看板が空間を台無しにしている。
- 川に対して裏を向けている建物がもう少し川との関係を考慮すればもっと魅力ある場所になるのではないか。

C 皀樹橋～新橋



- 目黒川との関係性を一番感じるエリア。
- このエリアは桜並木の川岸の道路が遊歩道になっているが都市計画道路ではないのか道に沿った建物へのアプローチがなく、建物の裏になっている場所が多い
- 公共施設ばかりで賑わいがない
- 川の両側とも遊歩道になっていて歩きやすい。
- 商業エリアから公共エリアに変わり落ち着いた雰囲気となっている。
- このエリアは一番親水性がある地点。水鳥、魚なども一番多く生息しているエリア。
- 公園、資料館などが多く点在しパブリックサービスは充実している。
- 中目黒公園は良いが歩道と公園のレベル差があるため歩道から公園を感じることは難しい。
- 公園などの施設はあるが川沿いのベンチは少ない。
- 山手通り側の建物は日照の関係もあるが建物の裏側になり景観として良くない。
- ヒューマンスケールをどう作るかが課題
- 建物と目黒川との関係性はほとんどない。ほとんどが建物の裏となっている。
- 川に対して裏を向けている建物がもう少し川との関係を考慮すればもっと魅力ある場所になるのではないか。

D 新橋～目黒駅

- 行人坂は坂道が急できつい。車の通りの制限をしてはどうか。
- 商店街とともに大円寺などの寺があり、雅叙園などの現代建築と目黒川の対比が印象的。行人坂も風情がある。
- 坂道の魅力を引き出し切れていない。
- 雅叙園の裏山の森は景観上重要保護をかけるべき。
- 大円寺は緑も感じ都市のオアシス的場所となっている。
- 坂の途中に休める場所が欲しい。
- 大円寺、雅叙園辺りは歴史が感じられ面白い。
- 大円寺のただずまいが心を和ませてくれる。
- 権野助坂の商店街には魅力を感じられない。坂を活かした計画があるのではないか。

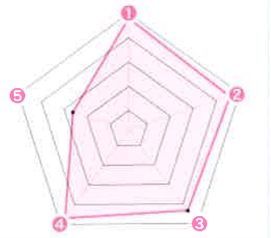
第３回　東大駒場キャンパス正門～α切地蔵コース［2009.06.21］

［パラメーター］ ❶歴史的資産の保存状況 ❷自然や樹木等の保存と環境とのかかわり ❸市民生活に対する貢献度 ❹街並み形成に役立ってるか ❺交通体系の整備度

A 東大駒場キャンパス正門～東大駒場キャンパス西門

- 使われながら保存・活用されているので良い。
- 竣工した時期は古いだろうが今見ても古さを感じない建物があった。
- 歴史ある建造物と新しい施設の共存や、食堂のリノベーションが印象的であった。
- イチョウ並木は良かった。また古い樹木もたくさんあり気持ちの良い場所。
- 内部の自然や樹木の保存状態は良く、一部武蔵野の雑木林を残している場所もある。
- 食堂などは一般利用が可能で地域に開かれた印象が残る。
- キャンパスが街の風景となっている。
- 駒場の街並みになじんでいた。
- 構内は広くゆったりとしているが立派な並木道もキャンパス全体の配置計画にはっきりとした計画資源として　生かされていない為雑然とした感じである。
- 比較的まとまったキャンパス計画がなされ、歩きやすかった。

B 東大駒場キャンパス西門～東大リサーチキャンパス正門 東大リサーチキャンパス東門～駒場野公園正門

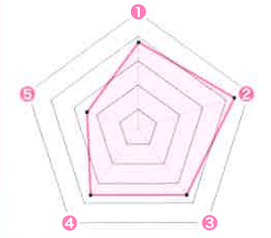


- 歴史的遺産の保存に苦慮している話しを伺い（民藝館）後世に継承する大変さを知った。
- 旧前田邸の洋館和館供に保存状態が良く、管理されている。
- 前田侯爵邸、民芸館は駒場の核となる歴史的遺産であることを再認識した。
- 駒場公園の樹木は歴史もあって、とても雰囲気も良い。
- 駒場公園は住民の憩いの場所にもなっている。
- 市民から利用され地域の大切な建物物と親しまれていると感じられる。
- 都心にあって緑豊かな環境は、市民生活に対する貢献度は高い。
- 住宅地と建物街並みが突出することなく形成されている。
- 駒場公園は道路に面した帯状の住宅街の背後にある為街並み形成にはそれほど役に立っていないが民藝館、西館は景観上重要な施設となっている。
- このエリアBの緑と歴史的な建築物が、駒場の街並みを形成している多大な要素だと感じた。

C 東大リサーチキャンパス正門～東大リサーチキャンパス東門

- 13，14号棟は今後も地域の資産として残すべき。
- まるで過去からタイムスリップした感じだった。
- 前庭や内部には立派な樹木も残っているが周囲の環境との関わりに対する考慮は薄い。
- 駒場キャンパスと比較すると緑も少なく無機質な印象が残る。
- 新しく建設された建物によって仕上げ材の反射などにより周囲住民に被害が出ている。
- 地域との関係を全く配慮せずにたてられた計画には納得できない。
- 地域に開かれている施設もあるのだろうが、閉ざされた印象であった。
- 正門の雰囲気は役立っていると思われるが東側の面は巨大な壁であり景観上問題は残る。
- 緑多い街並みに高い近代的な建物が建ち違和感を感じる住民もいるかと思う。
- 地域の街並みには悪影響を及ぼしているボリューム・配置計画に思える。
- 正面の古い建物は丁寧に作られている。窓の上下のタイルの水切りは設計者の気持ちが伝わってくる。

D 駒場野公園正門～α切地蔵

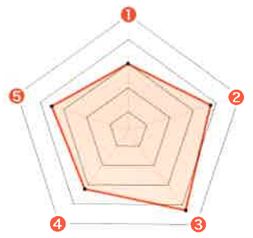


- ケルネル田圃等その姿を良く伝えていると思われる。
- 史跡としての価値が高い公園と思える。
- 樹木も多く良い環境となっている。
- 個人宅が分割されることが多い（相続）　そのたびに樹木が少なくなって来ている。
- 駒場公園と比較すると樹木は無作為的に施され、自然な印象を受けた。
- 緑も多く、体育館多目的広場もあり生活には良い空間となっている。
- 樹木多く公園は自然体を守っているが管理が悪いのか。
- 駒場野公園の一方は京王井の頭線沿いにありあまり街並み形成には役立っていない。
- 線路越しに森のような景観を形成しており、街並みに良い印象を受ける。
- 駐車場も不整備だが散歩するには良好。
- 駒場公園同様、歩きにくい状況だった。土の状態も自然体で良いが水はけなど歩きやすさも配慮されたい。

第４回　学芸大学駅～目黒不動尊コース［2009.10.18］

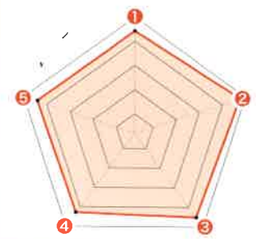
［パラメーター］ ❶街の骨格 ❷街の生活 ❸街の自然 ❹街の歴史 ❺街の施設

A 学芸大学駅～碑文谷公園



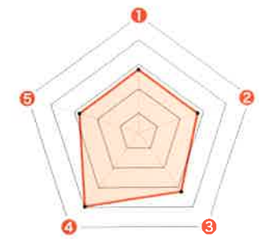
- 学芸大学の駅前は道幅が狭く電柱があり人車の分離が難しい。時間帯で車の進入を制限する必要があるのでは。
- 電柱・電線は街の景観を非常にじゃましている。
- 街の骨格としての駅前広場が構成されていない。
- 碑文谷公園、運動公園、ボニー乗場などよく利用されている。
- 碑文谷公園は地域にとけ込んでいる。
- 碑文谷公園の地域での価値は高いと思われる。
- 碑文谷公園のグランドと池のあるゾーンが静と動の関係で利用者の幅を広げている。
- 公園周辺の宅地は庭の緑化に熱心。
- 特に歴史的というものはなかったが例えば日大水泳部の建物（場所）などは古橋の終戦直後の活躍の背景になっている。こういう「史跡」をもっとパブリックにアピール出来ないか。
- 駅前広場や休むところがなく人の憩える場所が不足。
- 駅前広場や休憩所が必要。高架下の空間をもっと使うべき。

B 碑文谷住宅街と碑文谷公園



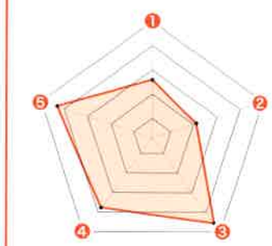
- この街の骨格は目黒通り沿いのビル群と後背の住宅地で格差が大きい。前者ダイエー周辺は週末ひどい混雑、影響は住宅地にまで及ぶ。それ以外は緑に恵まれた良好な住宅地を形成している。
- 大地主の所有区画が残っていてオープンスペース、緑地が豊富。
- サレジオ教会がコアとなって住宅と街が調和している。
- 街区の形成や環境など大変整っている。
- すずめのお宿、サレジオ教会、碑文谷八幡神社は歴世的価値高く宅地内緑化し貢献大きい。
- 目黒の昔の面影を残す貴重なスポット。目黒に住んでいても知らない人が多いのでは。
- すずめのお宿、サレジオ教会、八幡神社の歴史的価値高く良く保存活用されている。
- サレジオ教会の日曜礼拝、入りきれない程の人がいた。日常的に活かされた歴史的建造物。
- 碑文谷八幡から立会川緑並に出る参道が美しい。
- 立会川緑道は、暗渠の上に作られ幅は狭いがベンチなども点在し、犬の散歩などにも使われていそう。
- あちこちに小公園があって街並みに変化を与えている。

C 円融寺～清水池公園



- 立会川緑道は整備され歩きやすい。
- 行き止まり私道が多い。低層住宅中心。
- 家との接道部に緑が少ない。生活感あふれる街並み。美しさはあまり感じない。
- 清水池公園は釣り堀公園として人気はあるが、昔の自然の面影はない。
- 緑化率は円融寺と清水池公園が大きく貢献。
- 旧立会川の緑道の歩道の高さが不自然。
- 宅地内の樹木が少ないので全体に緑に乏しい。
- 円融寺の歴史は平安初期に遡るという。ずいぶん古くから開けた土地なのですね。
- 仁王門の「黒仁王」は今はガラスが嵌められ見にくくなった。
- 創建800年の円融寺境内と隣接の幼稚園は良質なオープンスペースを提供。
- 寺社は景観を踏まえた土地利用を考える必要がある。
- ポケットオアシス清水　街角のポケットパークで一休みするのにとても良い。

D 目黒本町周辺～目黒不動尊

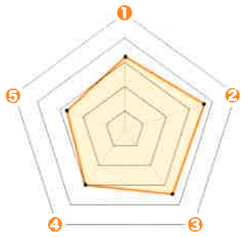


- 林試の森は地域の貴重な財産。
- 林試の森公園手前の路はポケットパークを造り周辺の舗装もタイルピンコロと配慮している。
- 木造密集エリアで生活道路も狭いがヒューマンスケールでここちよい。
- 目黒不動周辺は五百羅漢寺を始め寺院が多くあり門前町を形成。しかし現代の街並みとしての活気に欠ける。
- 林試の森、目黒不動尊内の自然は圧巻。
- 夏場２～３度の温度差がある。明治33年に試験苗圃として植林された「森」。110年くらいで今のような「森」が創れるのですね。
- 林試の森、起伏に富む地形と豊富な樹種、橋や谷小川と森の動物にも出会える。
- 林試の森、このような広大な空間を確保したことに敬意を表する。
- 目黒不動尊の石段を登り不動公園を通り海福寺、五百羅漢寺など細い路地伝いの寺巡りは異次元空間体験。
- 目黒不動尊は大きな存在だが塀を廻しているため親しみやすさがない。有名なのに遠くから来る人の為に駐車場など整備が必要と思われる。

第5回 祐天寺駅～インテリアストリート～学芸大学駅コース［2010.03.28］

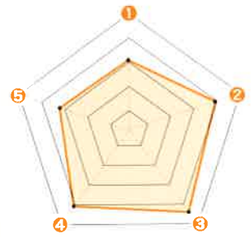
［パラメーター］ ❶ 街の骨格 ❷ 街の生活 ❸ 街の自然 ❹ 街の歴史 ❺ 街の施設

A 祐天寺駅～祐天寺



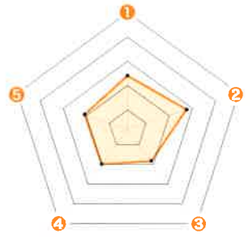
- 駅前のロータリーの適当な大きさを評価する。また商店街は車・バスが通っていて混雑しているが、一本通りを入ると静かな住宅と商店が混在して歩行者に優しい街であるが、車歩道の分離はなく、広くない道幅に対して電柱が邪魔をしている。
- 各家庭の植木がよく手入れされていて好印象。花鉢を置いたりする家が多く住民意識は、高いと思う。
- 平塚幼稚園の大クスノキは地域のシンボル的な存在で園庭と共に地域を支える貴重なみどりの都市空間である。
- 街の自然、緑、公園は残念ながら少ない地域。
- 小学校の木造校舎を移築、再利用している平塚幼稚園。
- 平塚幼稚園の園舎は廃校になった小学校の木造校舎を福島から移築して活用している。木組の美しさと木のぬくもりが感じる建築空間は素晴しく、園長の自然との触れ合いと歴史・文化を大切にする哲学に感銘する。
- 商店街に面した小さな空間に置かれた汽車の車輪はアート性を感じる。
- 目黒高校の外周を生垣にしたことで地域への貢献が深まったと感じる。
- 平塚幼稚園、カレーショップナイアガラのように非常に個性のある場所、店がある。こういった個性は非常に大事にしていくべきではないかと思う。

B 祐天寺～十七か坂～目黒通り



- 祐天寺から墓地を抜けて狭い道路が続く。シルバーピアの敷地内空地としての通り抜け通路や、十七ケ坂と坂道が街区の特徴を形成して変化にとんだ景観は通り抜けの車もなく住民には歩きやすさと比較的安全性を約束する。
- 歩いた道は比較的狭いが交通量が少ないことから歩きやすい。また、なべころ坂、ばくろ坂を見ながら、十七ケ坂まで旧道（庚申道）であったことが感じられる。
- 道路に高低差があり（山から谷、谷から山に横断）、道路が突然階段になったりする所もあった。
- 高級な住宅地が広がる地域で、現代彫刻美術館や新しい住宅やマンションもそれなりの質を保ち、目黒通りに近いところに、大正か昭和の始めに建てられたと思われる、洋和風な住宅兼用の眼科医院が美しい。
- 住民の意識が高く家の前に緑を置いたりして綺麗に使用という意識の高い所がある。特に彫刻美術館周辺の意識が非常に高い。
- 祐天寺や長泉院などの寺の境内が公園的に整備され、地域に貢献している。東ガスのマンション付属の公園空地も自然を残している。
- 街路は非常に狭く歩きにくく防災面でも難のある所があるが、それ以上に路地など歴史を感じて非常に楽しい。
- 住宅の更新の際に保存することが目的で残っていた桜の木が印象的であった。

C 目黒通り インテリアストリート



- 歩道はしっかりあるので歩きやすくはある。しかし幹線道路沿いであまり楽しくない。
- 目黒通りの北側沿道は、木造町屋が残っており、その1階部分にインテリアショップが入居している。
- 幹線道路に建つ建物は非常にバラバラで汚い物だが、その中でも意識レベルの高い店舗、家具屋が多いのでそれが街の雰囲気を作っている。
- インテリアショップストリートとして古い民家をリノベーションした店舗や現代建築が混在して立ち並んでいる。
- メディヤの後押しがあってインテリアショップコミュニティとして発展してきた経緯から、今後の目黒区の観光コースとして加えられると感じた。
- 街路樹と低木の刈り込みに、一工夫ほしいところ。
- 家具屋ストリートなのに歩道に休憩場がない、ベンチがない。
- 歴史的な建造物がないがバス停の元競馬場前に競馬場があったことをしのぶ馬のブロンズ像が印象的であった。
- 脱車社会を目指すべき。東横線から歩いてショッピングを基本とすれば、街に人の流れや賑わいが生まれる。
- 今後の街の発展のためには共同の駐車場の整備が必要。
- 楽しいインテリアストリートを造る為家具屋と行政が一体となり休める場所椅子などを設置するべきではないか。

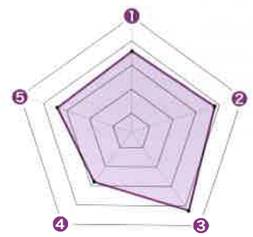
D 地震の学習館～学芸大学駅

- このあたりは、古い商店街の道筋と車が駒沢通りから目黒通りへ抜ける車が整備の遅れている狭い道をバスとともに走っていて、町の骨格は滅茶苦茶である。
- 歩道が無く危ないところもある。
- 商店街は車がなかなか入ってこないので楽しく歩ける。
- 商店街に関しては非常に活気があって楽しい。その反面地震の学習館付近の住宅地は少し寒々しい感じがする。
- もっと休憩場が充実されるべき。
- 商店街にオアシス的にポケットパークがあり緑がある。なかなか商店街では見られない光景でもある。
- 地震の学習館は大きい地震の体験できる貴重な施設であるが、市民に対するPR不足が問題である。少なくとも区　内の中・小学校の児童全てに体験させるべきである。館内の案内人も上手とはいえない。
- 地震の学習館は立派な施設だが、十分利用されていない。
- 公共施設と公園の複合化が必要。

第6回 緑が丘～自由が丘コース［2010.07.24］

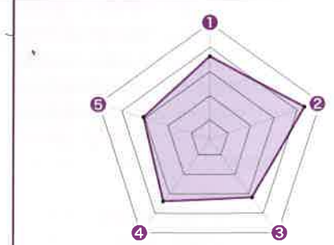
［パラメーター］ ❶ 街並みへの意識 ❷ 街の生活 ❸ 街の潤い、ゆとり ❹ 街の深み、奥行き ❺ 街のスケール感

A 緑ヶ丘～九品仏緑道住宅街エリア



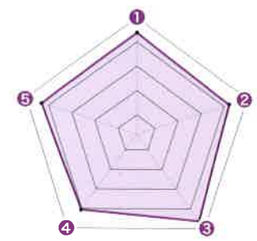
- 緑道を中央にした道路と建物群との距離が良い。
- 遊歩道の手摺は、歩行者の通行障害になるため、フェンスではなく、ポールを並べるほうが良いのでは。
- 九品仏川の流れのかたちの緑道はうねりが程よく気持ちいい。
- 緑を意識してる建物は少ないような気がする。
- なんと言っても緑道の桜並木。四季を感じられる贅沢な場所。
- 西側の商業地域は,更にエリアBにつながって魅力的な緑道公園となり、憩いの空間を作る。
- 茶の店など、緑道と敷地の変形を工夫して、ユニークな空間をつくりだしている。
- 緑道が有る事により、ゆとりと潤いを感じる街並みと言える。
- 緑道のガードレールに一工夫ほしい。緑に溶け込む色等
- 旧水路を活かした桜並木の歩道は心の安まる外部空間である。
- 緑道が昔の面影を残すが街としてはあまり深みを感じない。
- 緑道を3分割しているフェンス、高低差を工夫すればよりリッチな空間になるのでは？
- どこかで昔の九品仏川の流れが見えたら、土地の記憶を伝えることが出来る。

B 自由が丘駅周辺商業エリア



- 場所により店舗の質に差があるが、街並みとして良好。
- 通りごとに名称を付けるなど、街並みをつくる意識は非常に高い。
- 路面をアスファルト舗装にするか、ピンコロ石にするかは、街の雰囲気を大きく変える要素。
- 自由が丘の顔である北口駅前広場を中心に古くから発展した街並みであるが車社会の対応が必要である。
- 自由が丘デパート、老舗の有名店舗が核となり賑わいの中心。
- ヨーロッパ的なスケールでの石畳の路地や店舗が随所にあり、人をひきつける。
- 店の前に広場や緑地などゆとりを持たせたものが有る。
- 段差の無い歩車分離の舗装が良い。
- 中低層の建物が多い為緑化スペースが少ない割りに外部空間としては圧迫感はない。
- 各店が店の周りの緑化に取り組む姿勢が感じられる。
- 質の高い店舗が有るものの、全体として深みは感じられない。
- エリアにより全く雰囲気の違った街になっているのが歩いていて面白い。綺麗な建物があったり路地があったり
- 昔の車優先の道路計画を、見直すべきであろう。

C 自由が丘住区エリア



- 一部、住宅と商業の混在が、ユニークな街並みを形成している。
- 住民の街並みへの意識も高く良質の住環境が維持されている。
- 商業系エリアと住居系エリアがはっきり分かれているのも特徴。
- 商業エリアにも程近く住区エリアにも魅力ある店が点在する。
- 特に熊野神社は緑が豊かで、街中であることを忘れる。
- 住宅の生け垣が良い。
- 住戸の個性ある緑が道路の良環境を演出している。
- 大木、老木が街並みに深みをもたせている。
- 新旧の建物が適度に混在し、ゆるやかに代謝が進んでいる。
- 各住宅の敷地が比較的大きく、古い住宅もよく整備されており、落ち着きのある住宅街となっている。
- 大塚文庫など今後も保存していければよい。
- 建物の大きさ、高さ、現在のところは良好な町並みとなっている。
- 大塚文庫（大江 宏氏設計）は目黒区として保存する建物の一つとなるのではないか。

あとがき

まち歩きとは

私のまち歩き―街の個性を探しつつ私にとって「まち」とは「街」。人人・土土・人人です。まず、その街にはどんな人々が往き来しているのか?どんな出会いがあるのか?に興味があります。街あるきで「見つけたいもの」、それは「美しい景色」や「綺麗な建物」ではありません。「その街らしさ」、「街の個性」、「その街の誇り」です。「街のえくぼ（ふと佇んでおしゃべりできる小さな空地）」があるかも気になります。
（石川 洋美 / 建築家）

まち歩きの魅力とは、どんなものだろう!気が向いた時、何度でも歩いて見たくなる路、その街の佇まいは、古い神社を取り囲む大小の樹々、樹々を通る風の音、小径から見える草花の繁った小さな庭、かすかに薫ってくる梅や、甘い梔子の香り、すべてのものが自分に語りかけてくる。坂道から見える街並みや空の色、カフェ脇道の小さな石段、曲がりくねった小径、そこから続く玄関への草花と木陰のアプローチ、時には水盤の睡蓮も、住まいの周りには、自分の感性で楽しい風景の路をまだあちらこちらに見出せると思う。季節の移ろいを感じながら、お気に入りの路を歩く、何と楽しいことではないだろうか。
（泉　貞夫 / 建築家）

まち歩き、目的地へ向かうといった移動手段として歩くのではなく、歩く事そのものを目的とする。普段感じないものが見えてくる。この気持ちよさは緑のおかげ?この家、道と窓の関係がいい、視線の抜けも…なんて建築家目線かと思えば、古い地図や情報を片手に昔の姿を想像する歴史家になったり、次の瞬間は未来に思いを馳せる都市計画家と思えば、木々や足元の小さな花を見て、にわか植物学者。その時々思いつくまま、ぼんやり歩けば気分も爽快で体も軽くなる。大げさに構えず、まずは目的もなく歩いてみる。そこには小さな発見の連続がある。
（伊藤　正 / 建築家）

まち歩きは、自分達の町の環境を見る楽しみがある。自分たちの町の変化や成長を知る事もできる。「おや、いつの間に?」と。自分達の町の歴史や文化にも興味を持つようになる。「なるほど、こんな町なんだ」と。まち歩きは、景観の監視に役立つ。変テコな建物が建っていないか、毒々しい看板は立っていないかと見て廻れる。やはり、自分達の町に相応しくないものは「嫌」だ。まち歩きをすると、自分達の町に「住んでよかった、居てよかった」と愛着が湧く。そして何より、まち歩きは健康に良い。歩く事は最高のエクササイズなのだ。
（岡野 正人 / 建築家）

東京で暮らしていて本当に良かったなと思うことの筆頭にまち歩きがある。仕事柄、最先端の建築やデザインを身近に見れるのは、勿論有り難い。だが、もっと有り難い事は、東京には、数え切れないほど沢山の電車の駅がある事だ。目的も無く電車に乗り、目的も無くどこかの駅で降りる。そして身の赴くままに街を歩く。東京は、近代都市計画が実現しなかったことが幸して、どこの街にも必ずと言って良いほど不合理で説明づけられない不思議な場所がある。ビルの隙間の朽ち果てそうな木造建築、商店街にある小さなお宮やお地蔵様、道の真ん中にある樹木や石塊などなど。恐らく今から 20 年掛りでも東京の街を制覇する事など出来ないだろう。だから僕にとって東京の街は、もっとも身近で魅力的な遊び場なのだ。
（木村 丈夫 / 建築家）

街歩きの楽しさは想像すること。例えば、街並を乱すような建築があったとすれば、自分だったら、もっとこうしてみようであるとか、もっとこういったことが出来るのにであるとか。調和のとれた街並があったとすれば、何と何がどういった理由で作用して調和につながっているかであるとか。そういった想像をしながら街並を見ていると、たった道一本違っただけでも、その風景は全くの別物になり、また新たな発見と想像を私に与えてくれる。私にとって街歩きとは、日常の中の楽しみであると同時に、いつも新しい事を教えられ、考えさせられる教科書のような存在である。
（徐　光／建築家）

人間の生活は合理と不合理がいり混じったもので、成り立っています。その人間が住む街や建物も、合理的だけでは、いけないのです。街の緑の在り方も、建物の形や材料も、合理だけでは魅力なく、人は好きになってくれません。穏やかに日が当たり緑の輝く通り、人々がにぎわい、おしゃべりが始まる街角、歴史を感じる、古い社や大木、石垣そして人々が助け合い、誇りをもって生きる街。街は人が生きる場であり、街自体も人や植物や水や風と共に生きていくのです。そんな住みたい街、夢のある街の姿をイメージしながら、まち歩きをしています。
（中山 庚一郎 / 建築家）

棚橋さんからのお誘いで第 2 回から参加しています。建築家の方たちと歩くことで見慣れた建物や風景について新たな視点を持つことができましたし、長年住んでいながら初めて訪れる場所も多く目黒を良く知る機会にもなりました。街あるきの会の目的は「より良い街つくり」と伺っています。改めてそのような見方で街を歩くことによっていろいろな事に気づきました。歴史的建築物の持つ存在感、宅地の樹木が与える街のうるおい、人工的に作られたせせらぎの周りに戻ってくる自然、駐車場などとして失われつつある貴重な緑地など、この会への参加で私は新たなテーマを与えられたような気がして、素人なりに何をするべきか考えたいと思っています。
（野村 維男 / 一般参加者）

江戸時代を背景にした時代小説では、本所から目黒や根岸など、徒歩でせっせと行き来する様子が書かれていますが、昔の人は健脚だったと感心させられます。そこで我々も頑張って歩こう…!歩く目線で街の景観を眺めると、今まで見えなかった街のディテールが見えてきて、そこで感じることは、道幅も狭く、曲がりくねった道に囲まれた町屋が、独特な趣のある風情で大いに魅力的であったり、車や自転車が幅を利かせて歩くのが大変な道や、ここの街角公園はこうしたらいいのにとか、欲求不満を感じながらどうしたら良くなるか‥なんて考えることがいいですね。
（松原 忠策／建築家）

東京のまち歩きには永井荷風、種村季弘、川本三郎と先達が多いが、なかでも荷風さんのそれはリズムが良く、背筋が伸びて下駄の音が聞こえるようで好きだ。「裏道を行こう、横道を歩もう。かくの如き私が好んで日和下駄をカラカラ鳴らして行く裏通りにはきまって淫祠がある。」日和下駄の第二章の冒頭である。荷風さんの視線は淫祠から樹、地図、寺、水附渡舟、路地、閑地、崖、坂、夕陽附富士眺望と見事にまち歩きの楽しさをとらえていく。川本三郎さんはこれに夕方の居酒屋を加えるが、大賛成である。街への興味は愛着に変わり、地道な街造りにつながるだろう。
（袴田 喜夫 / 建築家）

まち歩きから始めるまちづくりを考えるまちの魅力は、実際に歩き五感で感じることで本当のまちの魅力が見えてくる。さらにまちの人と会話することでみえない地域の魅力に出会うこともできる。一方、まちの主役はそこに住む人々であり、地域の人々が一緒に歩くことで自分達のまちを知り、まちを考えてもらうきっかけにもなる。まちの魅力や課題を議論し、まち歩きの成果をまちづくりにつなげていくことができる。まちに愛着と誇りをもって守り育てる意識が芽生えるまち歩きを実践したいと考えている。
（本田 和之 / 目黒区住宅・街づくりセンター）

いつもの街をみんなで歩く
「まち歩き」は素敵な活動ですね。朝夕の通勤の時も、たまにお使いに出てもその時はそうは言わない。かつて「銀ぶら」と言って、特に高価なものを買うわけでもないがウインドウショッピングをして一時を過ごす。楽しく達成感もある。「銀」と「ぶら」の組み合わせがいい。「お散歩」はいつもの気分で家を出て同じ場所同じ人と出会って心が安らぐ。考えてみれば味わい深い行為です。「山歩き」は場所も見るものも違うが発見したものを仲間と確かめある喜びが共通する。「まち歩き」は自分たちの「まち」を「山歩き」の気分で歩き、未来を描くことが楽しい。
（三井所 清典 / 建築家）

いつもは気の赴くままに一人でぶらぶらする散歩が好きなのですが、住まいの近くを JIA 会員の皆様と散策すると違った視点での住環境が体験できると思い、自由が丘の住まいに近い目黒界隈のまち歩きに参加させていただきました。現役をリタイヤしてからのまち歩きは建築と見学するというよりも、まちの持っている歴史、雰囲気、気配を楽しんでいたのですが、JIA のまち歩きでは久しぶりに現役のメンバーの視点での建築鑑賞に触れる事ができ、思いがけなく新鮮な気分でまちを歩く事ができました。
（三木 経一郎 / 建築家）

目黒地域会
(社)日本建築家協会　関東甲信越支部

「いい緑のある住みたい街をつくろう　まち歩き」

発行・制作　(社)日本建築家協会関東甲信越支部目黒地域会
編集・制作　HYS W&G
問合せ　目黒地域会事務局
〒153-0041
東京都目黒区駒場 4-4-7（エーディーネットワーク建築研究所内）
TEL 03-5452-1641
info@jia-meguro.com

定　価　500 円

ウェブサイト　www.jia-meguro.com

「いい緑のある住みたい街をつくろう　まち歩き」
Town Walking - for a beloved green community